

重慶『新華日報』1945年8月9日

中国共産党系紙が広島原爆投下直後に出した時評

夏衍「原子爆弾に思う」

以下は1945年当時、中国共産党の指導の下で発行されていた『新華日報』紙1945年8月9日付けの「時評」である。当時、この新聞の発行に責任を負っていた夏衍が広島原爆直後、長崎原爆が投下される前にすばやく出したというのが重要である。「日本の侵略者」にとって「当然の報い」とする一方で、「科学精神の冒涇」であるとも説き、この兵器は国連安保理事会のコントロール下におかれねばならないとも主張している。この精神が貫かれることを望むばかりである。（寄稿者）



夏衍（執筆当時）

原子爆弾の発明と最初の使用は、世界を震撼させた。科学革命と戦争革命が同じ日に起きた。

原子爆弾の実際の性能については、まだ議論するだけの十分かつ具体的な資料が得られていないが、これまでに得られた新しい報道からすれば、その猛烈な破壊力と巨大な致死性は疑う余地のない事実である。日本侵略者がこのような人類史上前例のない戦争兵器によって打撃されたことは、ファシスト侵略者の自業自得と言える。8年間日本ファシストの野蛮な虐殺を受けた我々中国人民からすれば、欺瞞された罪なき日本人を除き、日本の軍閥に何の憐憫ももっていない。しかし、本来全人類の生活の福祉のために奉仕するはずの科学が、このような惨烈な破壊殺傷兵器に応用されたのに、全人類、特に世界中の科学に献身する学者たちが深い感慨を覚えると信じている。

純粹科学の見地からすれば、原子爆弾の発明は、原子の分裂から生じる「エネルギー」の実用化という点で、間違いなく時代を画する革命である。この「エネルギー」を制御する装置の完成が、産業革命に光を失わせる。蒸気機関も内燃機関も水力タービンも旧時代の遺物になり、石炭と石油の獲得競争が引き起こす政治の引き合いも意味を失う。この「エネルギー」を建設的な動力や平和的な工業生産に応用するとき、人類の文明も必ず画期的な進歩を迎える。残念ながら今日、人類の歴史を左右するこの大発明が、何千人もの人々が犠牲となる戦陣の中で頭角をあらわしてしまったのである。

自然科学の興隆は、ヨーロッパの暗黒の封建社会を打破し、市民階級を台頭させ、その上、近代文明を創造した原動力であった。18世紀末19世紀初頭、科学者はまだ社会革命の最前線に立ち、闘士として人類の幸福のために献身していた。若い科学と若い階級が一緒に立ち、当時、「科学に殉ずる」と「真理に殉ずる」は同じ意味だった。

ただし、資産階級が成長を経て老衰する段に到ると、この階級に操縦される科学も彼らの階級利益に奉仕し、全人類の福祉という本来の目的から離れてしまっている。生産から消費へ、建設から破壊へ、生かすことから殺すことへ、これはもう科学精神の逆転と冒涇である。戦争において、一般人はすでに科学者に対して警戒心と恐怖を抱くに至っている。

イギリスの著名な科学者ハイデン教授は、イギリスの総選挙で発表した論文「彼らはなぜ科学を恐れているのか」の中で、人々の科学に対する恐れについて深い感慨を表明した。すなわち、今回の闘争の目的は戦争の根絶であったが、科学者がコツコツこなしした科学成果がロケット砲弾、地震爆弾、細菌爆弾から原子爆弾に至ることによって一瞬で何千人も何万人もの人の息子、夫、父親を殺すことができるようになったということは、疑いもなく人民にとっての恐怖なのである。

原爆研究の責任者であったアンダーソン卿が、7日のロンドンのラジオ演説で、「原爆は人類に福祉を作ることができるし、人類に大きな破壊をもたらすこともできる」、だから「原爆の応用は、政治家の最高の精神に基づき、国連の政治家が集まり審議すべきである」と述べた。

科学が人民の手に委ねられれば人民に福祉を提供するが、ファシストの侵略者の手に握られれば人類を滅亡させることさえできる。それゆえ、原子爆弾は平和維持の強力なツールにも、みだりな侵略の武器にもなり得るのである。

人類の英知の最高の成果であるこの科学発明は、世界のすべての平和を愛する民族が保持し、利用し、管理すべきものであり、この科学発明——無尽蔵の「エネルギー」は、人類の福祉ために使用されるべきである。一撃で数百万人を殺傷できるこのような兵器の使用は、国連安全保障理事会が管理し使

用すべきである。それは今日、世界中の進歩的な科学者や人々の肩にかかっている責任である。

(游偉訳)